

目次

巻頭言	1
一 キリスト者の結婚とは	
(一) 結婚の意味	2
(二) 結婚の目的―家庭づくり	3
(三) 結婚式の実際(婚約式、結婚式、記念式など)	5
(四) 相模原教会の婚約式・結婚式【手続き】	8
二 キリスト者の葬儀とは	
(一) 葬儀の意味	11
(二) 葬儀の目的	12
(三) 葬儀の実際(事前のこと、前夜式、 葬儀、参列など)	13
(四) 相模原教会の葬儀、埋骨式、記念式 【手続き】	18
三 慶弔内規	22
四 教会墓地規定	25
◇別紙	

巻 頭 言

ここに「慶弔のしおり」をお送りいたします。

私どもは人生の中で、慶びと悲しみの時を経験いたします。その時を神様の前で、また同時に教会員の群れの中で、喜び合い、慰め合う事ができますことは、キリスト者に与えられた恵みではないでしょうか。

「結婚式」と「葬りの式」は、どちらもみ言葉が高く掲げられ、聖書が証しする神が礼拝される礼拝式です。また多くの兄弟姉妹が心を寄せ合う、祈りの式でもあると言えますでしょう。

その大切な式が豊かなものとなるようにと願い「慶弔のしおり」を編集いたしました。
お役に立てましたら幸いです。

日本基督教団相模原教会 慶弔委員会

伝道師 藤森誠

牧師 辻川篤

一 キリスト者の結婚とは

(一) 結婚の意味

人は一人で生きるものでしょうか。神はご自分の中で〈父・子・聖霊〉の交わりを持たれる神であられます。そのような神に人間もかたどられて、人は本来、隣人と交わりを持って生きるものとして造られました。旧約聖書には、そういう人間の創造物語が記されています。「神は御自分にかたどって人を創造された」(創世記1・27)と。ですから人間というものは、初めから一人で生きるものではないのです。そして、その具体的な場所が、結婚をして家庭を持つていくということであるのです。聖書は続いて、「男と女に創造された」(創世記1・27)と語ります。神は人間を、あなたと共に生きる大切な隣人として男と女に創造なさいました。一緒に生きる、それも男と女と一緒に生きるということ、それは神の御心なのです。ですから、人間が生き生きとしている姿は、二人で共に生きる姿なのですね。

聖書には、もう一つの創造物語があります。そこでは、神は初め男だけを造られるのです。しかし、彼がたった一人でいるのを良しとされず、「彼に合う助ける者」(創世記2・18)を神は造られるのです。男は女を見て叫び

ます。「これこそわたしの骨の骨、わたしの肉の肉」（創世記2・23）と。自分の探していたものが、ついにここに見つかったという感動的な言葉です。

アダムは、衣食住がすべてそろった楽園で、どんなに不自由なく暮らせたとしても、なお欠けているものが一つあったのです。それが「助け合う人」でありました。でも、神の御心のうちに、男と女は互いに大切な〈助け手〉として出会うのです。ですから結婚式とは、神に向かつて「これこそわたしの助ける者です」と宣言する式です。また同時に、式に集う親しい人々の前にする誓いでもあります。

神の祝福の下に男と女は不思議な巡り会いをし、「二人は一体となる」と、創世記二章二十四節に記されています。結婚は、神によって与えられた、男と女の真実な結び合いです。ここにお互いが父母を離れ、新しい〈一つの家族〉となる歩みが始まるのです。

（二）結婚の目的―家庭づくり

結婚式でなされる〈宣誓〉で、司式者は新郎新婦に、「あなたは神の定めに従って夫婦となるうとしています」と呼びかけます。この「夫婦となるうとしています」という言葉は、「一つの家庭をつくろうとしています」と

言い換えてもよいでしょう。ですから、結婚は単に「好きだから一緒になる」ということを超えたものであります。教会は、繰り返し〈家庭〉の大切さを告げるのです。結婚とは、家庭という生活そのものでもあるからです。

今の時代、家族像が解体したかのようにも見られます。同じ屋根の下に住みながら、個々がバラバラで別居人のようになっていくことさえあります。しかし豊かな生活は、自分を心から受け止めてもらえる家族の上にこそ成り立つのです。まるで揺るがない岩のように、お互いを支えるものが家族なのです。また身体も心も打ちひしがれるときには、なおさらその弱さを受け入れ合う家族が必要なのではないでしょうか。結婚は、そのような希望と優しさに溢れた生活への出発であるのです。

結婚は、二人で行く旅路です。その中には、苦しいことや悲しいことも起こるでしょう。でも、神によって巡り会わされて結ばれた二人は、そういう非常時において、さらに愛を深め合うのです。二人で重荷を負い合いながら、愛は深まり、絆はさらに強くなっていくのです。

その愛は、「愛そのもの」であられる「主イエス」にならう時に、真実なものにされますでしょう。主を仰ぐところどころでこそ、二人は真に愛する者同士と成って行くのです。

(三) 結婚式の実際（婚約式、結婚式、記念式など）

1 婚約式について

婚約式は、これから結婚しようという決意した二人が、その意思を神と会衆の前で確認し合う式です。結婚式の三カ月前から一年前に行うことが多いようですが、必ずしもしなればならないというものではありません。

しかし、婚約期間は、「これこそわたしの骨の骨、わたしの肉の肉」と、他の誰にも代えることは出来ない巡り合わせを、主に感謝する時です。婚約式をしようか、どうしようかと迷われるのでしたら、その喜びの時を味わわれることをお勧めします。

2 結婚式の日時について

日本の風習の中では、「大安」を「良き日」とするようですが、教会ではそのような「吉凶日」というものはありません。何よりも大切なのは、主よりの祝福を受け取るということです。神様からの祝福は、この日が多い、また少ないというようなことはないのですから。

ただし、その主イエスが十字架にかかられたことを覚える「受難節・レント（イースターの前の四十日間）」は、主の苦難と死を覚える時ですから、祝い事を控えます。特に「受難週（イースターの前の一週間）」は結婚式をし

ないのが普通です。

3 立会人について

新郎新婦を出会わせて下さった真の方は、神なので、結婚式においてお二人の間を仲介する「仲人」は、とくに立てる必要はありません。

ただし、み言葉を通して二人が夫婦と宣される式の「立会人」として、友人などが付き添う場合があります。アメリカの結婚式では、新郎の付き添いをベストマン、新婦の付き添いをメイド・オブ・オナーと呼びます。原則としては、出席者全員が立会人であると言えるでしょう。

4 結婚式の準備について

式の準備の第一のことは、何よりもお二人で神へと心上げることです。その時間の中で、他の誰にも代えがたい「助け手」に巡り会わされたことに感謝する日々をお過ごしください。

また、式の準備とは、二人の間の愛をさらに深め合うことです。さらに、お互いに仕え合う者であることを心に刻むことです。祈り合う時をお持ちください。そのよ
うな時間の中で、具体的なこと（招待状、披露宴、婚礼服、新居など）が全て整えられてゆくことを、経験して
いただきたいと思います。

5 指輪の交換について

結婚指輪は、〈誓約〉の後に交換されます。これはお二人が、神と会衆との前で誓約を交わした印として、また互いにかけてがえのない者同士となったことを心に刻むため、さらに仕え合う者同士となったことの証しとして、交換されるのです。相手から贈られた指輪が、そのことを生活のあらゆる場面で思い出させてくれる〈印〉となれば良いですね。

ただし指輪は、必ず交換しなければならないというものではありません。

6 生まれた子どもの祝福について

子どもの誕生は、教会にとつても神の家族の一員の誕生として喜びです。申し出てくだされば、教会は喜んで「幼児祝福式」を礼拝の中でささげて誕生を祝います。また、ご家庭に牧師・伝道師（以下牧師と言う）を招いて、親戚家族・友人が集まる「幼児祝福式」を行うこともいたします。まずは牧師とご相談ください。

7 結婚記念式について

結婚後の生活には、喜びと共に試練もあるでしょう。その生活の只中で、主イエスを仰いで行くのです。二人が心を合わせてみ言葉に頼って進むなら、愛が一層深まって行くでしょう。そのようにして年を重ね区切りの

時が来たなら、「結婚記念式」をご家庭でされてはどうでしょうか。〈神の恵みを数える記念式〉は、きっと喜びに満たされたものになるでしょう。

【四】相模原教会の婚約式・結婚式【手続き】

1 はじめに書かれた通り、〈婚約式〉や〈結婚式〉は神と人との前で誓う大変重要な礼拝式です。

2 結婚の準備の中で、お互いの親族が集って「婚約式」を行います。最近では省略する場合がありますが、牧師にご相談ください。

3 牧師に相談においでください。お話がまとまったら、「結婚式申込書」を三〜六カ月前に提出していただきます。

教会に今まで来られなかった方でも、キリスト教の結婚式の意味をご理解いただきましたら、相談のうえ受け付けることが出来ます。

結婚生活は、一生の苦楽を共にする生活です。この新生活を主にあつて築いていくことの大切さを、牧師と一緒に学び合う時間を必ず持ちます。日程は牧師とご相談ください。

結婚式または婚約式の申込書は、牧師が受け取った

後、挙式前に定例幹事会の承認を得ます。

4 「結婚式申込書」は、幹事会の承認を経てから慶弔委員の担当者にまわります。一〜三カ月前にお二人揃っておいでになり、結婚式次第を牧師との間で決めます。その後、慶弔委員はその他の細かい内容を両人の希望を伺いながら打ち合わせをして取り決めます。

5 結婚式は、挙式の一週間前ぐらいにリハーサルを行います。お二人のご両親も一緒においでくださることをお勧めします。また式の中で写真を撮られる場合はカメラマンもリハーサルにご参加ください（式中、写真撮影が禁止されている場面があります）

6 教会にお渡しいただく諸費用は、リハーサルの日に委員にお渡しいただくようお願いいたします。もし委員不在の時は牧師にご相談ください。資料として「結婚式のご案内」があります。結婚式費用は、特別な事以外は、定められている通りです。

7 日取りなど何らかの都合で取り止めなければならぬ事情が生じた場合は、早急に牧師に連絡してください。

8 相模原教会以外の場所で結婚式を行う場合は、直接牧師とご相談ください。牧師謝儀については慶弔委員に相談していただきます。

9 オーガニストを知人に頼むなど、特別な要望があれば、まず牧師にお伝えください。費用に関係するものは、委員が計算をして差し引かせていただきます。

二 キリスト者の葬儀とは

(一) 葬儀の意味

「メモメント・モリ(汝の死を覚えよ)」。これは、修道院の挨拶の言葉の一つで、私ども相模原教会の墓石にも彫刻された言葉です。キリスト者は、死と向かいつつ、地上の日々を旅する旅人です。しかし、愛する人の旅路の終わりを見送る者は、やはりこの世での別れを受け止めなければなりません。ここに喪失の悲しみがあります。

しかし、思い起こしていただきたいのです。キリスト者は、キリストに結ばれた者です。それはキリストの復活に結ばれたということです。私どもは、信頼をもって、「死んだ人にも生きている人にも主となられた」(ローマの信徒への手紙 14・9)キリストに、愛する人を委ねることが出来るのです。愛する人は、復活されたキリストの生命に与るものとなった。ここに慰めがあります。そして、神の国が到来する完成の日、「新しき人」へと甦る約束をいただいているのです。ここに希望があります。初期の教会は、葬送の行進に際して、復活の生命を示す白い衣をまとい、希望を表わす詩篇を朗唱しながら、凱旋の行進のように進んだそうです。

悲しむ者が慰めと希望を抱きながら死者を葬る式が、

キリスト者の「葬儀」です。それは、神の御前で行なわれる、御名が崇められ賛美される礼拝式なのです。

(二) 葬儀の目的

もともと逝去者の家から墓地に移動することが、葬儀の重要な儀式でした。その後、家から墓地に向かう途中で、親しかつた兄弟を招き、礼拝堂を借りて礼拝をするようになりました。ですから、礼拝堂でなされる葬りの式は、家庭礼拝のような私的な面に、公的な面が加わった礼拝式と理解することができます。

葬儀においては、一人の信仰者の死に際し、故人の人生が神の救済史に置かれていたことが明らかにされます。神がどんなに御心を傾けて故人に添っておられたか、その御業が語られます。そのことによって、イエス・キリストの御名が讃えられ、遺族や葬儀出席者は深い慰めを与えられるのです。

イエス・キリストの御名がたたえられるとは、十字架と復活の出来事が明らかにされると言うことに他なりません。ですから、主の名が高く上げられることを妨げる偶像や迷信的なものは、一切取り除かれることとなります。

(三) 葬儀の実際（事前のこと、前夜式、
葬儀、参列など）

1 事前のことについて

① いつも教会との連絡を保っておくことが望ましいことです。重態や危篤に陥ってから連絡するのではなく、あらかじめ重大な変化について、教会と連絡をとっておくようにしましょう。

② 病床洗礼、病床聖餐や在宅聖餐の希望も、牧師に是非申し出てください。

③ キリスト者として、日頃から親族や関係者に、自分が洗礼を授けられたキリスト者であること、自分の葬りは教会の葬りの仕方に従って執り行つて欲しいことを伝えておくことが肝心です。

【「私の葬儀への希望」のお知らせ】

相模原教会では「私の葬儀への希望」を用意しています。元気なうちに、教会とご家族に葬儀の希望を出しておいていただくと、いざという時に混乱なく葬儀が厳粛に行なえると思います。

用紙は教会にありますので、お申し出ください。直筆で、密封して直接牧師に手渡ししてください。

埋火葬許可証を取るとき、氏名と本籍地の記入欄があります。間違えて書けばその通りになりますので、戸籍謄本がもしあれば慌てずに済むでしょう。

④ 葬儀の中で、故人の信仰歴（略歴）、愛読聖句、愛唱讃美歌を紹介することは意義深いことです。メモを作り、あらかじめ牧師に預けておくと良いでしょう。

2 臨終に際して

① 死亡に際しては、出来るだけ早く牧師に連絡をとってください。必要なことは、この時点で相談あるいは指示いたしますので、あれこれ思案する前に、まず牧師に連絡をしてください。

（葬儀社への依頼は、急ぐ必要はありません。故人の葬りをどのような考え方で進めるのかなど、基本的な事項が決まってから依頼すると、混乱がありません。葬儀社には、キリスト教プロテスタントであることを初めにはつきり告げる必要があります。また葬儀社は、あくまで遺族、牧師から依頼されたことを手伝っていただくために、費用を払ってお願いするものです。葬儀社が指示したり、依頼していないものを持ち込んだりするところは、好ましくありませんでしょう。）

② 医師による診断書を発行してもらいます。解剖・検死などをする場合は、遺体・遺品を受け取ることが出来る日時の確認を必ずしてください。

③ 献体を行なう場合は、献体先の病院と連絡をとり、車で迎えに来る時刻を確認しておきます。献体の場合でも、葬儀を行ないます。

3 葬儀の準備について

まず牧師が、遺族から必要なことをうかがいます。その次に、遺族、牧師、葬儀社の三者で打ち合わせをします。関係者への連絡や新聞その他の公示なども、この打ち合わせが終わりませんと、日時の最終決定になりません。

4 前夜式について

① 前夜式は、葬りの式の前夜に、自宅あるいは礼拝堂にて行なわれ、主に近親者が集まる祈りの式です。前夜式の日程は、事情があればこれ以外の日時でもかまいません。最近では、ご家庭に家族・近い友人だけが集まって、故人の思い出を語り合い、祈る時を持つ場合が多いです。お互いに喪失の思いを共有し、静かな時を大切にしたいものです。

② 前夜式後、親しい人々が交わりの機会を持つことは良いことですが、徹夜（通夜）で遺体を見守る習慣は、キリスト教には必要ありません。

5 葬儀について

① 葬儀は、礼拝堂か自宅で行ないます。どこで行なうかは、遺族の希望に従って決めます。また斎場に牧師を招いて行うこともできます。

葬儀は、納棺されたご遺体にて行なう場合と、火葬されてご遺骨にて行なう場合の、二通りがあります。

② 教会で執り行なう葬儀は、死者の供養ではありません。故人のご遺体を礼拝堂の会衆と同じように祈る姿で安置し、あたかも故人と肩を並べるような思いで、故人の救い主であるイエス・キリストの御名によって祈り、神を礼拝するものです。自宅で行なわれる場合も、家庭礼拝に準じる祈りの式であり、神礼拝なのです。

③ 教会の葬儀においては、壇飾りは不要です。葬儀の形式は、いつもの礼拝の形を理想とします。故人を記念して花を飾ることも、礼拝の延長線上にあり

ますから、名札などは取り外します。また、花輪や供物は教会では受け付けませんので、あらかじめ了解いただいでください。

④ キリスト教では、いわゆる「○○日祭」、「○回忌」等はありません。ただし遺族の希望によって、適当な時期に「記念式」を行なうことは有意義です。牧師にご相談ください。

6 葬儀に参列するにあたって

① 弔意の贈り物には「お花料」「お花一輪」「志」等と表記します。これ以外の「御霊前」「御仏前」「香典」などは不適當です。教会に弔用の袋が用意されていますのでご利用ください。

② キリスト者の死は「召天」「永眠」と表記されますが、「永眠」は厳密に言いますと間違いですので、牧師は使用しません。「主にあつて眠りについた」「キリストにある眠り」と表現します。教会で使う言葉としては、「死去」「死亡」「逝去」などが一番適當でしょう。「神に召された」でも良いでしょう。

③ 葬りに関わる言葉遣いは、難しいと言えます。大切なことは心を込めて遺族を慰めることであって、

形式ではありません。一般的に教会では避ける言葉を挙げておきます。

(冥福、慰霊、追善、遷化、成仏、鎮魂、入寂、忌中、荼毘、法要、法事、命日、幽明など)

④ 教会員は、すべて神が地上で共に生きるようにと与えてくださった神の家族です。一人一人は、神の家族としての兄弟姉妹です。礼拝堂でなされる葬儀には、迷わず出席するようにしましょう。生前、交際が少なかったなどで出欠の判断に迷う場合でも、出来るだけ出席するほうを選んでください。

(四) 相模原教会の葬儀、埋骨式、記念式【手続き】

1 葬儀

① 死亡に際しては、出来るだけ早く牧師に連絡をとってください。必要なことは、この時点で相談あるいは指示いたします。

その後に葬儀社を決め、葬りの式の準備を進めていきます。そのとき、「葬儀申込書」を書いていただきます。その後、牧師に提出してください。「葬儀申込書」は牧師が受け取った後、式執行後に定例幹事会の承認を得ます。

② 喪主または遺族は、教会あるいはその他の場所で
牧師と葬儀社と三者で協議いたします。

③ 前夜式および葬儀は規定による葬儀費用があります。
式が滞りなく済みましたら、費用は委員にお
渡してください。

④ ただし葬儀社への支払いは別途必要となります。
どの葬儀社を選んでもご自由ですが、特に葬儀社を
決めていない場合は、相模原教会でご紹介出来ませ
ん。しかし、教会はその葬儀社とは一切の利害関係はあ
りません。

⑤ 前夜式および葬儀はご自宅でもあるいは外部の
葬儀場でも執り行なう事が出来ます。

⑥ 前夜式を行なわないとお決めになれば、三者協議
でご相談ください。

2 埋骨式・記念式

① それぞれの式を行ないたい時は、牧師にご相談の
上、日取り等をお決めください。埋骨式、記念式は

原則として式執行前に定例幹事会の承認を得ます。

② 葬儀・火葬が終わりますと、「埋骨式」を行います。葬儀から埋骨式までの期間は、遺族によつて様々です。牧師とご相談ください。

式費用が決められています。通常、委員が同行しませんので、費用は牧師にお渡しください。尚、墓地管理法人へ支払いは別途必要です。

③ 埋骨式で、墓地が遠隔地にある場合は牧師の交通費はご遺族がご用意いただきたいと思えます。

④ 召天から一年後や五年後などに、召天者を覚えて「記念式」を行うこともできます。仏式のように「〇回忌」というものはありませんが、故人が天に在ることを覚え合う時を持つことは有意義なことです。また自宅で家庭礼拝の形で牧師をお呼びして行なうのも良いと思います。ご希望の方は、まず牧師にご相談ください。

⑤ 召天者記念礼拝と墓前礼拝

毎年、十一月第一主日の召天者記念礼拝に召天者の写真を飾って、地上に在る礼拝出席者と共に礼拝を捧げます。

またイースターの日の祝会后と召天者記念礼拝の日の午後、有志により教会墓地にて墓前礼拝を行います。この二回の墓前礼拝は、前もつて教会より召天者の遺族代表者に御案内をお送りします。

三 慶弔内規

教会員の慶弔に際し、教会はお祝いの記念、病氣や怪我のお見舞い、また、弔意を表すために左記のものをお渡ししています。教会で慶弔の事実気づかない場合があります。ありましたら、会員の方は牧師または慶弔委員長にお伝えください。漏れのないように心がけたいと思います。詳細については「慶弔のしおり別紙」をご覧ください。

(一) 結婚・・・聖書

聖書には、「祝ご結婚」の言葉に二人の氏名と、結婚式の年月日、および教会名と教会印を記して、お渡しします。

(二) 病氣・・・見舞金

花を受け付けない病院もありますので、お見舞金をお渡しします。

病氣は七日以上の入院を余儀なくされた場合に実施いたします。

一カ月以上の、長期の自宅療養の場合は、ヘルモソン会長、ぶどうの会長、青年会会長（以下会長、と言う）のいずれかが牧師ならびに慶弔委員長と相談して内規を適用するかどうかを決めていきます。

病氣の知らせを受けた時は、会長は牧師と慶弔委員長に通知し、同時に病人と親しい会員に見舞金を

持つて見舞いに行つていただきます。

指名を受けて病院等へ見舞いに行つていただいた場合は、教会は交通費を支給いたします。

尚、お見舞いをする会員のために、お見舞いカードを教会（ブックコーナー・野の花会）に用意しております。どうぞご利用ください。

（三） 召天・・生花・お花料

牧師は召天の連絡を受けたら、幹事に一斉連絡網をいたします。その後各組長に連絡し、組会連絡網を使って会員に通知いたします。

牧師は、同時に慶弔委員長と、召天者と最も親しい会員に連絡します。

慶弔委員長は委員に伝え、各会長と相談し、各会長は葬儀を手伝っていただく会員に連絡し、牧師を補佐いたします。

※「教会」と「教会外」の意味は、教会で司式をした場合および当教会牧師が他の場所で行なった場合を「教会」とし、それ以外は、「教会外」を指します。

(四) 出産・・・お祝い金

出産の知らせを受けた時は、牧師と慶弔委員長にお知らせください。教会よりお祝いを差し上げます。出産祝いカードを教会（ブックコーナー・野の花会）に用意しておりますのでご利用ください。

(五) 受洗・・・聖書

教会より聖書を贈ります。その聖書には、氏名および「祝受洗」の言葉に教会名と教会印を押し、受洗年月日を記します。牧師は愛餐会の席で聖書を贈ります。

(六) 敬老・・・聖書

その年の一月～十二月に満七十五歳になられる会員に、九月十五日の敬老の日に近い主日の礼拝の中で贈ります。

聖書には、氏名と「祝七十五歳」の言葉に教会名と教会印を押し、当日の年月日を記します。

(七) 災害その他、慶弔内規に規定していない慶弔関係は幹事会でその都度定めます。

四 相模原教会墓地規定

- (一) 名称を日本基督教団相模原教会墓地（以下教会墓地という）とします。
- (二) 教会墓地を神奈川県愛甲郡愛川町三増一〇九―二相模メモリアルパーク 特別ブロックハ列一番に置きます。
- (三) 教会墓地は相模原教会会員等で召天された人を埋骨する事を目的とし、礼拝を行う場所とします。
- (四) 教会墓地を使用する人は、次の資格を有するものとします。
 - ① 相模原教会の会員（本人）及びその配偶者、本人の父、母、子。
 - ② 幹事会で認められた人。
- (五) 教会墓地希望者は次に従って手続きを行います。
 - ① 教会墓地使用希望を牧師に申し出ます。
 - ② 慶弔委員長より「相模原教会墓地使用権申込書」をお渡しします
 - ③ 「相模原教会墓地使用権申込書」に記入して提

出し、墓地使用料を支払います。（別紙3頁参照）

④ 「教会墓地使用契約書」を交わします。

（一契約につき一名のみ）

⑤ 「教会墓地使用契約書」に教会員、使用者番号の記載を受け、双方が一部づつ保管します。これが埋骨の印となります。

（六）墓地使用契約は未使用の場合、解約を求めることが出来ます。

（七）教会は墓地管理法人と永代賃貸借契約を結んでおり、墓地の維持管理費用は教会が負担します。

（八）埋骨や墓誌氏名彫刻を希望される場合は、牧師にお申し出ください。その場合、墓地管理法人に支払う費用は、請求書に従って、本人負担となります。埋骨手続きは埋骨式当日の式前に行います。その際、埋骨許可書と教会が保管する墓地使用承諾証（権利証）が必要です。尚、分骨の場合も同じ手続きです。

（九）骨壺の大きさは柵に合わせて、規格七寸瓶（高さ27・5cm）最大横幅（21・3cm）以下とします。

(十) 教会墓地の使用に関する事務手続きは、慶弔委員会が行います。

(十一) この規定は社会情勢に合わせ、相模原教会幹事会の承認で改定することが出来ます。

※付帯事項

教会墓地は一九七八年、教会創立三十周年記念事業の一つとして計画され、一九七九年四月一四日のイースターにカロート献堂式が行われました。

墓地の面積は30㎡、カロート（納骨室）は外寸法3m×2m×2m。

その後、十字架、外柵、花立、墓誌と順次整えられ、教会員が選んだ「主はわが牧者なり」（故伊藤忠利牧師書）の聖句を刻み、一九九一年三月ほぼ現在の形となり完成いたしました。

二〇〇四年八月、初期のころの約七倍の二二五体を安置できる柵に改修し、墓誌もさらに一基追加設置いたしました。

二〇二三年現在墓誌は四基となりました。

墓地完成までに当時の教会委員会を中心として一六

年に及ぶ墓地献金、墓地使用予約、墓地債のご協力が
ありました。

総建築費 一千六百七十万円

二〇〇三年 三月 発行

二〇〇五年 三月 改訂

二〇一四年 十二月 改訂

二〇二三年 改訂予定

発行者 日本基督教団相模原教会
編集者 相模原教会慶弔委員会
発行責任者 伝道師 藤森誠